

公益社団法人 私立大学情報教育協会
平成 23 年度第 2 回薬学教育 FD/ICT 活用研究委員会 議事概要

I. 日 時：平成 23 年 12 月 9 日（金）午後 2 時から午後 4 時まで
場 所：私情協事務局会議室

II. 出席者：松山委員長、黒澤副委員長、齋藤委員、大嶋委員、大谷委員、松野（書記）
（事務局）井端事務局長、森下主幹、平田職員

III. 検討事項

1. アンケートを踏まえた教育改善モデルの見直し、修正

前回の教育改善モデルの中間まとめに対して、集計されたアンケートを踏まえて改善点を協議した。意見は全体として大きな反対はなかったが、個々のコメントに関して修正の必要性について以下のとおり検討した。また、アンケート回答者には意見送付のお礼と、修正モデルを添付することとした。

個々の意見に関する委員会コメントや対応は、以下のとおり。

- ・「2. 授業デザイン」「2.1 授業のねらい」以降にある「医学・薬学・看護学」について、他のコメディカルを反映するように「など」を追加する。
- ・「2.2 授業の仕組み」「eラーニングの環境とそれを支援、促進する上級学年生などのファシリテータの仕組み」の前に「能動的に取り組める」を挿入し、到達していない場合の対策をより明確にした。
- ・「2.4 ICTを用いた学習内容・方法」④における「ネット上のグループ学習」について、指摘のとおりネットに限定している訳ではないため、「ネット上の」を削除することにした。
- ・モデルに各大学の実情を踏まえてはどうかとの意見については、個別の問題であるため、今回のモデルには反映させないことにした。
- ・米国にはクリニカルコーディネーターという職種があるが、日本での専任は難しい問題であるため、本モデルでは取り上げず、「3. 授業運営上の問題及び課題」において、「医学、薬学、看護学等の教員間の連携」に「人材の確保」を追加することにした。
- ・「3. 授業運営上の問題及び課題」③の評価基準・到達目標については、外部意見を取り入れることを追加するため、「学習到達度の評価基準・方法を、専門家の意見を取り入れながら」を挿入した。
- ・「3. 授業運営上の問題及び課題」に⑤として卒業後教育との連携も考慮に入れるべきである旨を加えた。
- ・下位レベルの学生への対策の指摘については、今回のモデルとは別の問題であること、また、FDに関する問題は大学で行う問題であること、教育の表彰については既に実施済みであることから、モデルには反映しないことにした。

- ・ICT のみに偏っているとの指摘については、本モデルは ICT を中心としたものではなく、ICT は道具のひとつとして捉えているが、ICT に限定されていると誤解される可能性があるため、来年度の冊子でのモデルでは項目から「ICT を用いた」を削除し他の表現を用いることを確認した。
- ・カタカナ用語が多くわかりにくいとの意見については、編集段階で、カタカナ用語などをできるだけ使用しない、また説明を入れるなど注意することを確認した。

2. モデル授業の点検・評価・改善方法について

モデルの授業に関する点検・評価・改善方法について検討し、以下のような案が出された。さらに次回の委員会で完成させ、モデルに追加することにした。

(案)

評価方法としては、まずは通常の講義と同様に、教員間評価や学生アンケートなどの方法を用いて授業評価を行う。

特に、今回のモデル内容は実務実習事前学習に関する授業改善なので、追跡調査としての実務実習報告会、プリセプターからのフィードバックを通じて、授業の有効性を具体的に評価することが可能である。

3. 今後の予定

今後の委員会では、授業の点検・評価・改善方法を作成した後、モデルの授業を実現するための教員の教育力向上に関する課題について検討することを確認した。

方針としては、薬学教員のあるべき姿について提言し、教員の教育力は主に教員の専門性をもとに必要な能力をまとめることにした。

モデルの最終目的はチーム医療を想定した実務実習であり、実務家教員の理想は普段は医療現場にいてることであるが、現在は形骸化しているため、実務に関して、現場で M.D. (Doctor of Medicine) と対等に議論を行うことのできる能力および評価方法、さらに、評価に満たない実務家教員に対するケア（入れ替え）を実施するなどの提言を今後の委員会で検討することにした。

4. 次回委員会

平成 24 年 1 月 27 日（金）15:00 より近畿大学薬学部において開催することに決定した。